

2. 前提条件の整理

2.1 地域の現状

(1) 位置・地整

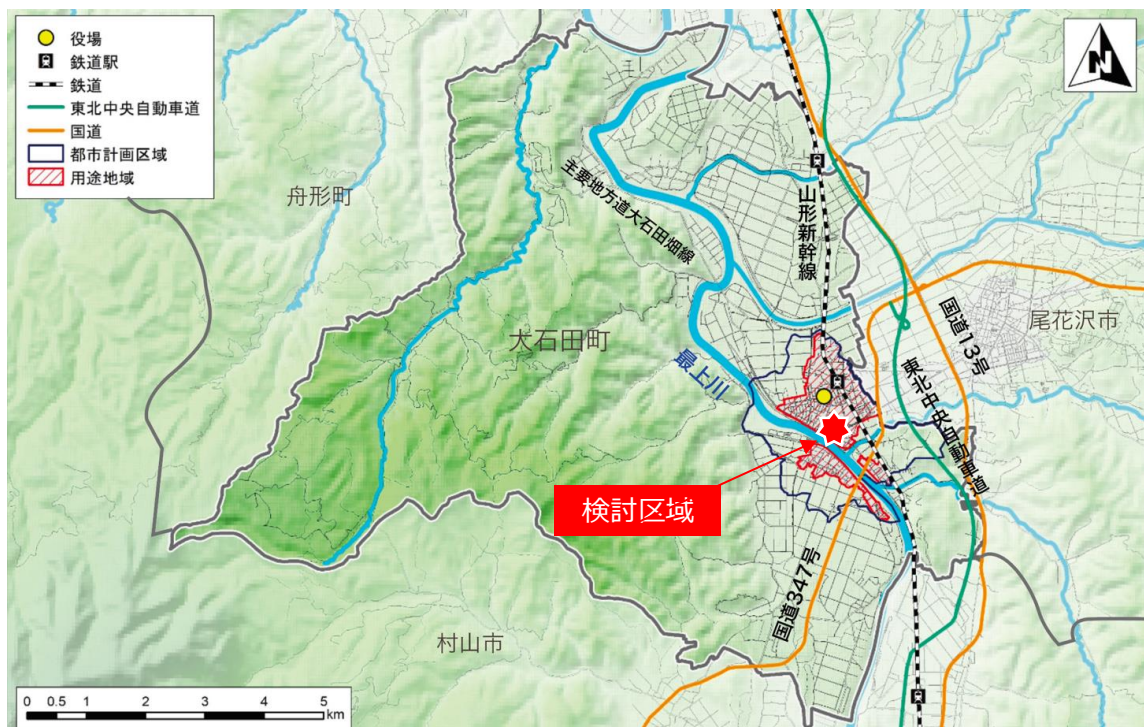
本町は、山形県のほぼ中央、尾花沢盆地の西部に位置し、北東は尾花沢市、南は村山市、西は舟形町と接しており、特に、本町と尾花沢市は市街地同士が鉄道や主要道路をはさんで 2 km ほどの近い位置にある。本町の中心部には、最上川が流れており、かつては、山形県の交通路として重要な役割を果たしており、最上川水運の拠点河岸として賑わいをみせていた。

こうした歴史的な背景から、最上川の周辺に市街地が形成され、中心部に住居や公共施設がまとまって整備され、都市計画区域が指定されている。

検討区域は、中心部のかつての河岸があった最上川沿川に位置している。

市街地の周辺は田園が広がり、南西部は大高根山や葉山からなる山岳地帯となっている。地形的特性から、冬期間には平地で約 2m、山間部で約 3m にまで積雪が達する全国有数の豪雪地帯となっている。

広域交通網としては、鉄道は JR 奥羽本線(山形新幹線)が、道路網は、2022 年に東北中央自動車道が開通し、国道 13 号、国道 347 号、主要地方道大石田畑線等によって周辺都市と結ばれている。



出典：大石田町都市計画マスタープラン現況整理編

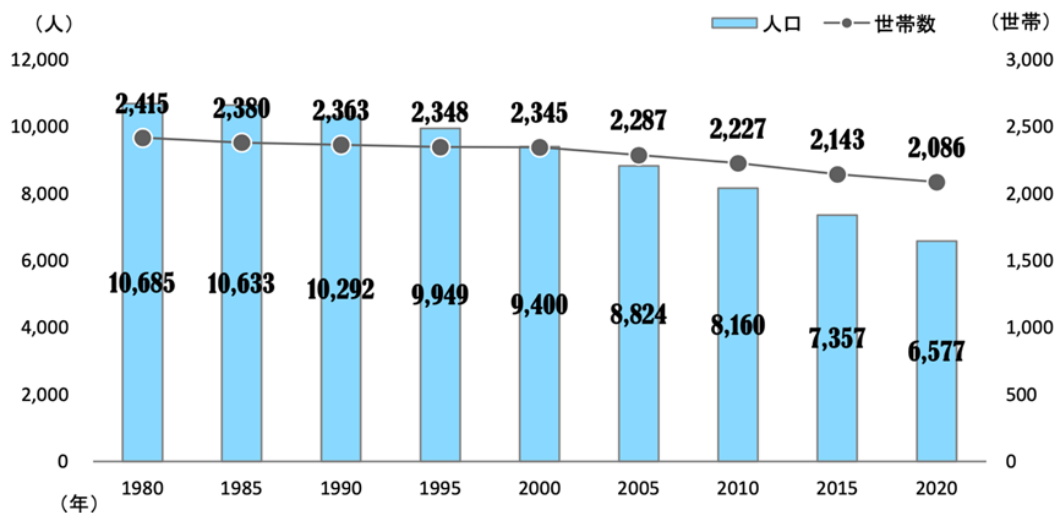
図 2.1 検討区域の位置図

(2) 人口・世帯数

人口及び世帯数は2020年(R2)現在で6,577人、2,086世帯となっており、1980年(S55)と2020年(R2)を比較すると、4,108人、329世帯の減少となっており、人口及び世帯数は減少が続いている。

人口分布をみると、役場を中心とするエリア（用途地域）に集積している。

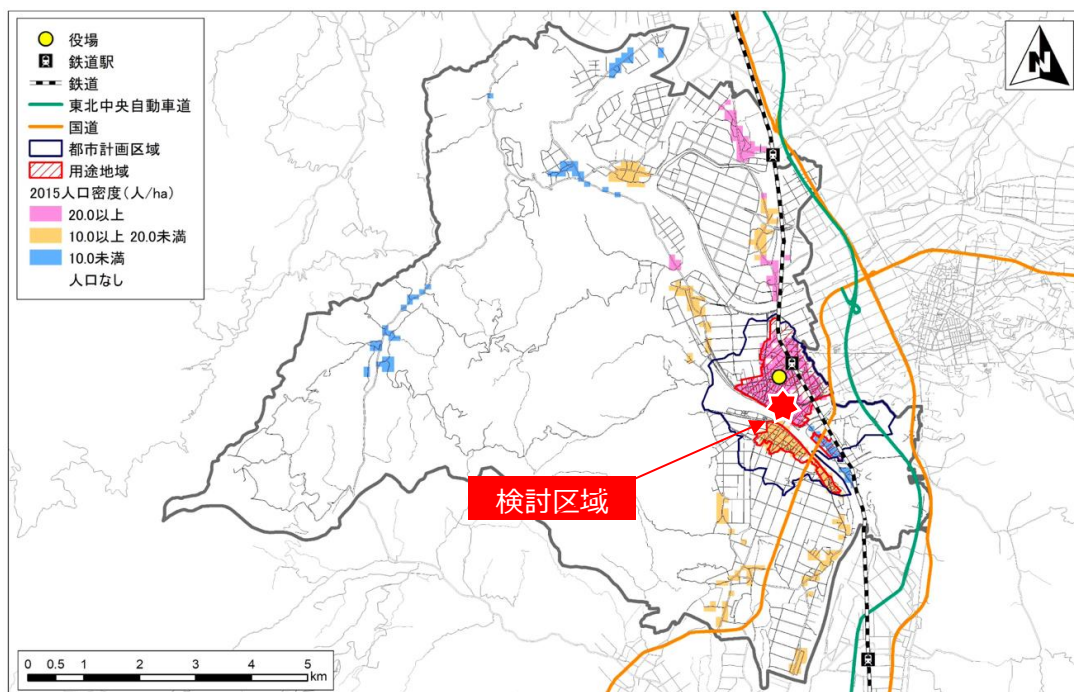
①人口・世帯数の推移



出典：国勢調査

図 2.2 人口・世帯数の推移

②人口の分布



出典：都市計画基礎調査、国土地理院「基盤地図情報」

図 2.3 人口の分布

(3) 主要施設分布

役場、学校、公園などの公共公益施設は、山形新幹線と最上川にはさまれた人口が集中する市街地に集積している。町の中央に位置する役場に隣接して複合的な機能が集約された町民交流センター・虹のプラザが整備され、コンパクトな市街地構造となっている。

道路網は、市街地の東側を東北中央自動車道、国道 347 号が南北には走り、（主）大石田畑線、（一）尾花沢大石田線、（一）大石田名木沢線、（一）大石田土生田線などが市街地と各方面をつないでいる。



図 2.4 主要施設の分布図

表 2.1 に図 2.4 の A～E の主要施設の概要を示す。

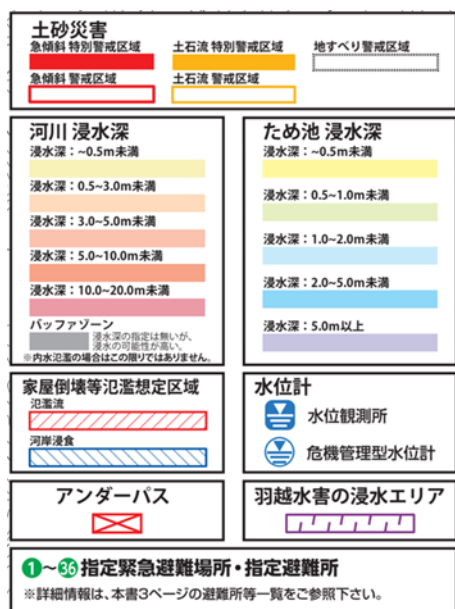
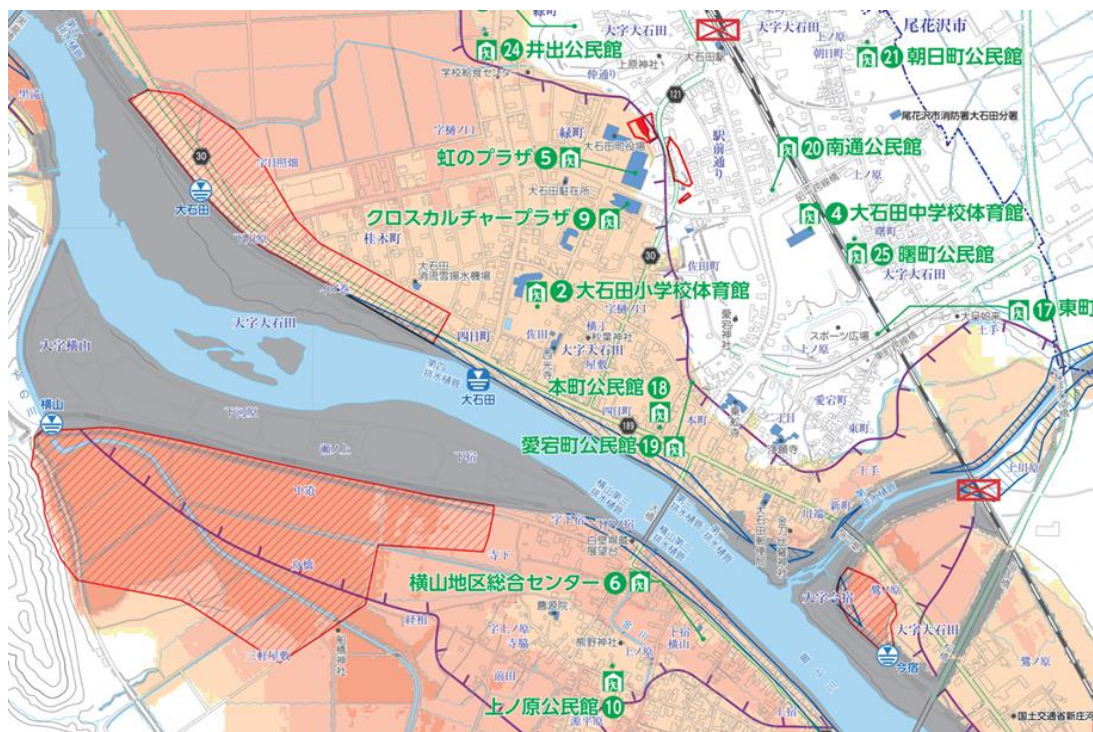
表 2.1 主要施設の概要

	史跡など	概 要	写 真
A	コミュニティスペース 「KOE no KURA（こえのくら）」	KOE no KURA（こえのくら）は、「大石田町とソトの、ヒト・モノ・コトが交流する場所」をコンセプトに、2017 年 8 月にオープンした町が運営する施設である。 情報発信基地、休憩・ミーティングスペース、イベントスペースとして多目的に利用。	
B	大石田町立 歴史民俗資料館	大石田町は、角二山遺跡など多くの遺跡があるまちで、近世に入ると最上川舟運の中継地“大石田河岸”として栄えた。 ここには、齋藤茂吉や、洋画家金山平三、日本画家小松均など、大石田にゆかりのある文学者や芸術家の作品をはじめ、郷土の歴史・文化に関する資料が数多く展示公開されている。	
C	クロスカルチャープラザ 「桂桜会館」	舟大工や左官職人が使用していた様々な道具や歴史資料が展示されている。また、小鵜飼舟の模型や当時の繁栄をあらわす「大石田河岸絵図」の復元模型もある。屋内多目的コートや和室もあり、学習や交流、宿泊施設としても利用できる。	
D	大石田温泉「あったまり ランド深堀／虹の館」	広々とした 50 畳の大浴場と地元次年子窯で焼かれた陶器風呂が自慢の日帰り温泉「あったまりランド深堀」。四季折々の美しい大自然の中で、温泉をじっくりと堪能できる。 併設の宿泊施設『虹の館』もあり、宿泊でものんびりと温泉を満喫できる。	
E	大石田町町民交流センター 虹のプラザ	「図書館」・「中央公民館」・「子育て支援センター」・「保健センター」・「社会福祉協議会」などの多様な機能を集めることで様々な利用を促すとともに、役場周辺に公的機関を集中させることで、利用者の利便性を高めている。 大石田町の新たな拠点として整備され、多目的ホール（創造の場）、会議室（表現の場）、エントランスホール（交流の場）なども備えている。	

(4) 大石田町防災マップ（2022 年）

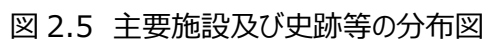
対象地の浸水深は 0.5～3.0m 未満となっている。また、対岸の横山地区は、3.0～5.0m 未満のエリアが多くを占めている。

本町公民館、愛宕町公民館、大石田小学校などの対象地から近い指定緊急避難所、指定避難所は、洪水時には浸水のおそれがあるため使用されない。北側の浸水が想定されないエリアの学校、公民館が指定されている。



①史跡など

蔵造りの建造物は、現在も住居や店舗などに使われており、比較的密に幹線道路沿道に分布しているために、かつての歴史の面影を残す街並みを形成している。



佐藤家住宅

出典（佐藤家住宅）：「山寺と紅花」推進協議会 HP

表 2.2 主要史跡の概要（１）

	史跡など	概 要	写 真
1	西光寺	大仁王像（町登録文化財）は、慶応 3 年に柴田喜蔵氏が 20 余人の職人の協力を得て作成したもの。身の丈 1 丈 2 尺（3 メートル 64 センチ）の木造で寄せ木造りとはいえ近郷近在一の大きさである。 また、病气やけがに御利益があるということで、仁王像の股ぐりなども行われている。	
2	乗船寺	舟運の栄華は大石田に京文化をもたらした。 木造千手観音立像（県指定文化財）は、寄木造（桧）、玉眼、像高 46.4 センチメートルの小像で、肉身には金、裳には緻密なキリガネ紋様をほどこしている。 釈迦涅槃像（町指定文化財）は、京仏師の作であろうといわれるもので、元禄 7 年（1694 年）に寄進された。2 メートルをこえる大きさでありながら細部まで丁寧に彫られており、全国でも珍しい。	
3	浄願寺	山門（町登録文化財）は、寛文の頃、延沢城より引移したもの。木造入母屋造りで、間口 5.71 メートル、奥行 3.41 メートル、本柱に冠桁を架し、背面に控柱 2 本を配している。	
4	角二山遺跡 （県指定文化財）	旧石器時代末期の最上川洪積段丘にある竪穴式住居群で、昭和 46 年に木造茅葺き 1 棟と笹竹葺き倉庫 1 棟が復元され、およそ 5000 年前の暮らしを偲ぶことができる。	
5	聴禽書屋	斎藤茂吉が大石田で約 2 年間暮らしていた二藤部家の元離れ。この建物の名前は庭内の木立を鳴きわたる小鳥の声に因み、斎藤茂吉自らが命名した。	
6	芭蕉歌仙碑	大石田の高野一栄宅で、随行した曾良と同地の高桑川水と 4 人で詠んだ際、芭蕉が詠んだ「さみだれを」を句碑にしたもの。現在はその建物もなく、この歌碑だけが当時の面影を伝えている。	

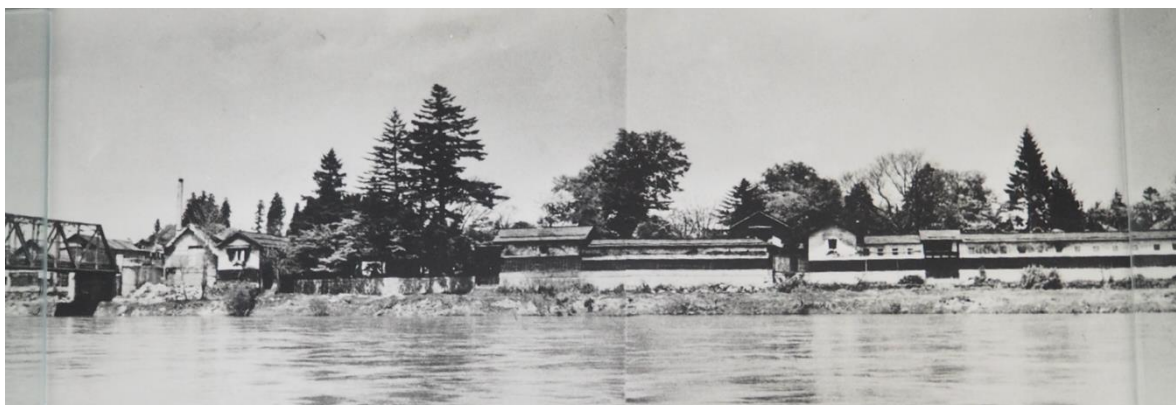
表 2.2 主要史跡の概要（２）

	史跡など	概 要	写 真
7	最上川舟役所跡 大門と堀蔵	室町時代の頃から始まったと言われている大石田河岸は、江戸時代元禄の頃にもっとも賑わい、寛政 4 年に幕府の舟役所が置かれた。最上川舟運の中枢として明治時代まで隆盛を極めていた。 近年になって、たびかさなる最上川の洪水で、堤防の整備にせまれ、昭和 40 年から 14 年の歳月をかけ、左右岸合わせて約 2,100m の特殊堤防が整備され、町並みと最上川は堤防により切り離され、川に近づくことはできなくなった。 その後、町民からの町と川のつながりを再現できないかという提案を受けて、平成 3 年度から平成 7 年度に特殊堤防の景観整備をおこない、白壁の堀蔵とともに最上川舟役所跡大門や堀蔵が再現され、舟運時代の華やかな頃の面影を偲ばせている。	 
		舟役所跡大門や堀蔵	白壁の堀蔵

【大石田河岸の昔】



町指定文化財『大石田河岸絵図』（江戸時代後期）（東町地区所蔵）



大石田河岸跡（昭和 30 年頃） 大石田町立歴史民俗資料館 蔵

出典：よみがえった大石田の河岸（建設省 東北地方建設局 新庄工事事務所）

②名物

【大石田そば】

大石田は玄そばの産地として知られ、夏と冬、昼と夜の寒暖の差が豊かな風味を育む。およそ 130 年前に伝来し土着した在来種の「来迎寺」や次年子の地そばを使った大石田そばは、程よいコシがあり、のどしなめらかな田舎そばの逸品である。

町の平野部と山間部を中心に、いくつもの名物手打ちそば屋が軒を連ねており、大石田そば街道は、平成 10 年に結成し、現在 13 店の手打ちそば屋が加盟している。そばの里づくりに取り組んでおり、新そばまつりや社会福祉施設等の慰問のほか、県内外でのそば振る舞い、物産展など各種イベントにも積極的に参加し、さまざまな活動を展開している。

「大石田新そばまつり」が毎年 10 月下旬に開催され、大石田固有の在来種「来迎寺在来」を、「とれたて・挽きたて・打ちたて・茹でたて」の「四たて」で味わうことができる。

■大石田そば街道マップ



出典：大石田町 HP

【千本だんご】

「最上川千本だんご」は行列のできる人気の団子屋で、向かいの豆腐屋さんが経営している。砂糖や酵母といった添加物を一切使用せず、その日の気候に合わせてお店でお米のふかし加減やつき加減を吟味しながら作られる。「賞味期限 1 日」をうたい、遠方からわざわざ足を運ぶ客もあとをたない。



③まつり

大石田町で開催される主なまつりとして、「最上川花火大会」は、90 年以上の歴史を持つ町最大の伝統行事となり毎年 12 万人以上の観光客が訪れている。また、ひなまつりや雪灯ろうまつりなど季節を彩るまつりも行われている。

大石田まつり「最上川花火大会」

最上川 大石田大橋下流部河川敷 8 月 16 日

大石田町内を流れる最上川に架かる「大橋」の完成を祝い始まったまつりで、90 年以上の歴史がある。その年に成人を迎えた若者による「成人神輿」や神輿団体による勇壮な神輿渡御が行われる中、大型花火を中心とした約 3,000 発の花火が打ち上がる。

観覧場所と打ち上げ場所が近く、まるで自分の真上で花火が開いているようで、打ち上げの最後を飾る、日本一の町民号「20 号玉（2 尺玉）」は、開花時の直径が 450m を超え圧巻である。



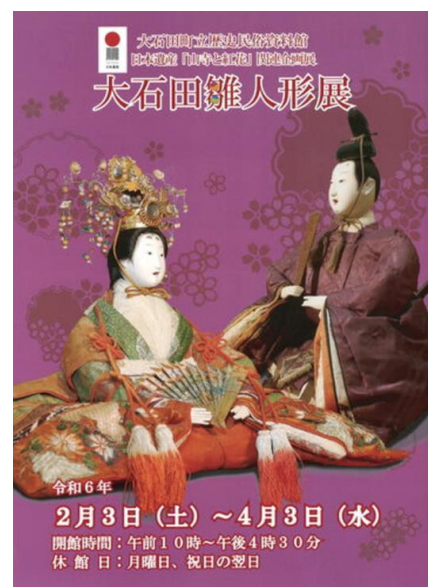
出典：大石田町 HP

大石田ひなまつり

最上川舟運最大の舟着場であった大石田には、江戸期になると、西廻り航路の整備により、上方との文物の交流が活発になる。大石田からは近隣から集められた米や紅花を運び、その返りに京都、大坂から優美なおひなさまがもたらされた。これらの「享保雛」や「古今雛」は大切に守り継がれ、現在に至っている。

大石田ひなまつりは、各家庭を訪ね歩き、飾り付けられたお雛様を見てまわる「おひなみ」という形式で、それぞれの家で守り継がれてきたお雛様がお供え物とともに飾り付けられている。

令和 6 年の開催は、大石田町立歴史民俗資料館での展示のみとなっている。



出典：大石田町 HP

大石田町雪灯ろう街道

各家庭や学校などで、工夫を凝らした雪灯ろうや雪像を作り、その中にろうそくを灯す。柔らかなろうそくの明かりが町じゅうを照らし、幻想的な風景が広がる。

コンテストもあり、大型の雪灯ろうや、子どもたちのオリジナル作品など、力作が町内各地で見られる。



令和5年2月11日（土曜日）に点灯
街角で見かけた印象深い雪灯ろう作品群

出典：大石田町 HP



大石田まつり「維新祭」

大石田駅前広場 2024年8月15日

「最上川花火大会」の前夜祭として大石田駅前広場を会場に開催される。町の若者たちが企画運営するもので、町外・県外の団体が参加し、華やかな太鼓と踊りの共演を繰り広げる。



出典：大石田町 HP

(6) 銀山温泉

山形県尾花沢市にある「銀山温泉」へは、「大石田駅」が玄関口となっている。

「銀山温泉」へは、最寄り駅の大石田駅から定期路線バス（はながさバス）が1日に5本運行している。銀山温泉までの所要時間は30～40分程度で、平成20年から登場したボンネットバスは、今では市内を走る姿も馴染み、「銀山線＝ボンネットバス」のイメージも定着している。

車での利用は、東北中央自動車道の尾花沢 IC より30分でアクセスできる。



大石田駅前、観光客のバス待ちが見られる



銀山温泉へのボンネットバス

【銀山温泉へのアクセス】



(7) 最上川舟唄

舟運時代、往来する舟上では、船頭たちが唄う舟唄が響いており、それら様々な舟唄を一つにまとめ、現代風にアレンジしたのが、世界三大舟唄のひとつである「最上川舟唄」である。

大石田町では、令和7年9月に最上川舟唄全国大会を町民交流センターで開催し、この最上川舟唄の伝承を促進するとともに、民謡を通じた人材育成と地域活性化を図っている。

参考：山形県公式観光サイト「やまがたへの旅」HP

2.2 上位関連計画

検討に先立ち、上位計画や周辺のインフラ整備計画を収集・整理し、町が掲げている本地域の位置付けをとりまとめた。

- ①第7次大石田町総合振興計画（令和3年3月）
- ②大石田町都市計画マスタープラン／立地適正化計画（2023年（令和5年）3月）
- ③大石田・横山地区かわまちづくり事業（令和5年度～）
- ④みんなでもがみがわを考えよう！ワークショップ（令和6年度～）
- ⑤大石田大橋架け替えに関する大石田地区付替道路の整備計画
- ⑥横山地区の堤防整備事業
- ⑦主要地方道大石田畑線 交通安全道路事業（令和5年度～）

（1）第7次大石田町総合振興計画（令和3年3月）

本計画では、「第6次大石田町総合振興計画」の基本理念と基本構想を引き継ぎ、まちづくりの永遠のテーマである「水と緑と文化のまち」の実現を目指すこととしている。

①基本構想

本町が目指す将来像とその実現に向けて、まちづくりの基本目標（6つの施策の柱）を設定している。

【目指す将来像】

「美しい自然と共生し、安心して暮らせるあたたかいまち」

【将来像実現のための基本目標】

- ◆1 健康で安心して暮らせる福祉のまちづくり
- ◆2 活力ある産業のまちづくり
- ◆3 安全で住みよいまちづくり
- ◆4 快適で安らぎのあるまちづくり
- ◆5 豊かな心を育む教育・文化のまちづくり
- ◆6 みんなが主役の協働のまちづくり

②基本計画

基本目標における、関連する基本施策について内容を示す。

基本目標 2 活力ある産業のまちづくり

農林業の振興	農業生産基盤の充実をはじめ、農地の集約化、認定農業者の育成や後継者・新規就農者の育成・確保、効率的な経営体制の確立を図るとともに、関係機関・団体との連携により、特産物の開発やブランド化を促進する。 また、減農薬・減化学肥料栽培等による環境に優しい農業の促進を図るとともに、<u>地産地消の視点に立った特産物の販売や都市・消費者との交流など、魅力ある農業を目指した多角的な活動を支援する。</u> 【主要施策】 ・<u>地域特産物の開発</u> ・<u>都市と農村との交流の促進</u>
商業の振興	<u>地元ならではの地域に密着したサービスの展開、観光や地場産業との連携、インターネットを活用した販売展開、魅力あるイベントの開催等を促進し、商業の再生・活性化を図る。</u> 【主要施策】 ・<u>商業の再生・活性化</u>
観光産業の振興	<u>交流人口の増加と地域活性化に向け、既存の祭り・観光イベントの充実強化やグリーン・ツーリズム（農作業を体験したり、その地域の歴史や自然に親しむ余暇活動）等の体験型観光の拡充、P R 活動の推進など、多様化・高度化する観光ニーズに即した多面的な取り組みを一体的に推進し、観光・交流機能の拡充に努める。</u> 【主要施策】 ・<u>既存観光・交流資源の充実・活用</u> ・<u>地域特性を活かした観光・交流機能の拡充</u> ・<u>広域観光体制の充実</u> ・<u>観光推進体制の推進</u>

基本目標 3 安全で住みよいまちづくり

道路・交通網の整備	東北中央自動車道の整備が進む中、交通の利便性や安全性の向上を目指して、国・県道の整備を促進するとともに、<u>生活道路等の計画的・効率的な維持管理に努める。</u> また、地域公共交通機関については、高齢者等交通弱者の交通確保と利便性の向上に向け、交通体系の再構築について検討する。 【主要施策】 ・<u>町道の整備</u> ・<u>環境と人に優しい道路空間づくり</u> ・<u>地域公共交通の充実</u>
住宅・市街地の整備	多様化する住宅ニーズへの対応と定住促進に向け、既存の町営住宅の適正管理及び整備について検討する。 また、急激な人口減少と高齢化の進行、さらには激甚化する災害の発生を背景

	に、持続可能な都市経営を可能とするために、都市機能の適正な立地と誘導を進め、安全で快適な生活環境の整備に努める。 【主要施策】 ・居住環境の総合的な整備
--	--

基本目標 4 快適で安らぎのあるまちづくり

環境保全活動の推進	本町が誇る豊かな自然環境の保全をはじめ、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりに向け、省エネルギーの推進、地球温暖化防止など、町民と行政の協働による環境保全に向けた取り組みを推進する。 【主要施策】 ・環境保全意識の高揚 ・環境保全活動の促進 ・美化運動の推進 ・新エネルギー施策の推進
公園・緑地等の整備	<u>町民の憩いの場、レクリエーションの場、子どもの遊び場の確保と防災機能の向上</u>に向け、身近な公園・緑地等の整備充実を図る。 【主要施策】 ・身近な公園・緑地等の充実
景観の保全・整備	本町の特徴であるかけがえのない<u>自然景観を活かした景観形成や貴重な歴史・文化資源の保存等</u>、景観を大事にしたまちづくりを推進する。 【主要施策】 ・景観の保全

基本目標 6 みんなが主役の協働のまちづくり

町民参加のまちづくりの推進	町民が自らの課題として積極的にまちづくりに関わり、新時代の大石田を築いていけるよう、ボランティアやN P O等の多様な住民団体の活動支援に努める。 また、広報・広聴活動の一層の充実、情報公開の推進、各種行政計画の策定・見直しへの町民参画・協働の促進等、町民参画・協働に向けた町民と行政の情報の共有化を推進する。 【主要施策】 ・まちづくり意識の高揚 ・町民及び民間の参画・協働の促進 ・町民団体、ボランティア活動及びN P O活動の充実支援
コミュニティ活動の充実	地域主導のまちづくりを一層進めるため、地域づくり活動の支援事業の推進をはじめ、地域や地域団体を単位とする自主的なコミュニティ活動の充実を支援する。また、コミュニティ活動拠点施設の充実支援に努める。 【主要施策】 ・コミュニティづくりの推進 ・コミュニティ活動支援の充実 ・コミュニティ施設の整備充実

(2) 大石田町都市計画マスタープラン（2023 年（令和 5 年）3 月）

本町では、人口減少や高齢化の進行を見据え、居住や生活サービス施設の緩やかな誘導を図るための立地適正化計画を内包した「大石田町都市計画マスタープラン」を策定しており、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方に基づく都市計画へと方針を転換し、持続可能な都市経営を目指すこととしている。

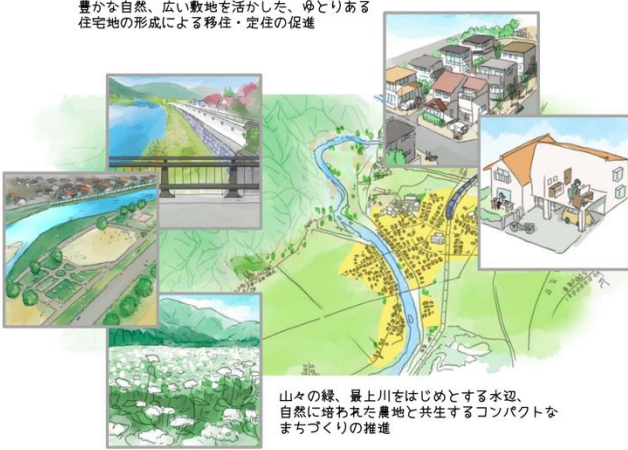
①まちづくり基本構想

将来像は、本計画の上位計画である第 7 次大石田町総合振興計画と共通としている。

【まちづくりの将来像】

「美しい自然と共生し、安心して暮らせるあたたかいまち」

【まちづくりの基本目標】

基本目標 ①	人と自然が共生する 豊かでゆとりあるまちづくり 市街地の未利用地や既存の都市基盤を活用しながら移住・定住を促進し、コンパクトながらもゆとりのある、自然と共生する豊かなまちを目指す。	豊かな自然、広い敷地を活かした、ゆとりある住宅地の形成による移住・定住の促進  山々の緑、最上川をはじめとする水辺、自然に培われた農地と共生するコンパクトなまちづくりの推進
基本目標 ②	安全・安心が実感できる災害に強いまちづくり 頻発する自然災害を教訓とした戦略的な土地利用や都市基盤の整備により、安全・安心を実感できる災害に対して強く、しなやかなまちを目指す。	
基本目標 ③	利便性・快適性の高い暮らしやすいまちづくり 山形連携中枢都市圏の市町による機能分担を図りつつ、日常生活圏で各種サービスを楽しむことができる利便性の高い、快適なまちを目指す。	
基本目標 ④	地域の産業活動が盛んな 活力あるまちづくり 広域交通利便性を活かした企業誘致や観光・交流人口の拡大に向けた地域の文化・資源の磨き上げを推進し、地域活力の源となる産業が盛んなまちを目指す。	東北中央自動車道の開通を活かした新たな企業誘致、雇用創出の推進  地域文化・資源の磨き上げと魅力発信の強化、観光・交流人口の拡大促進

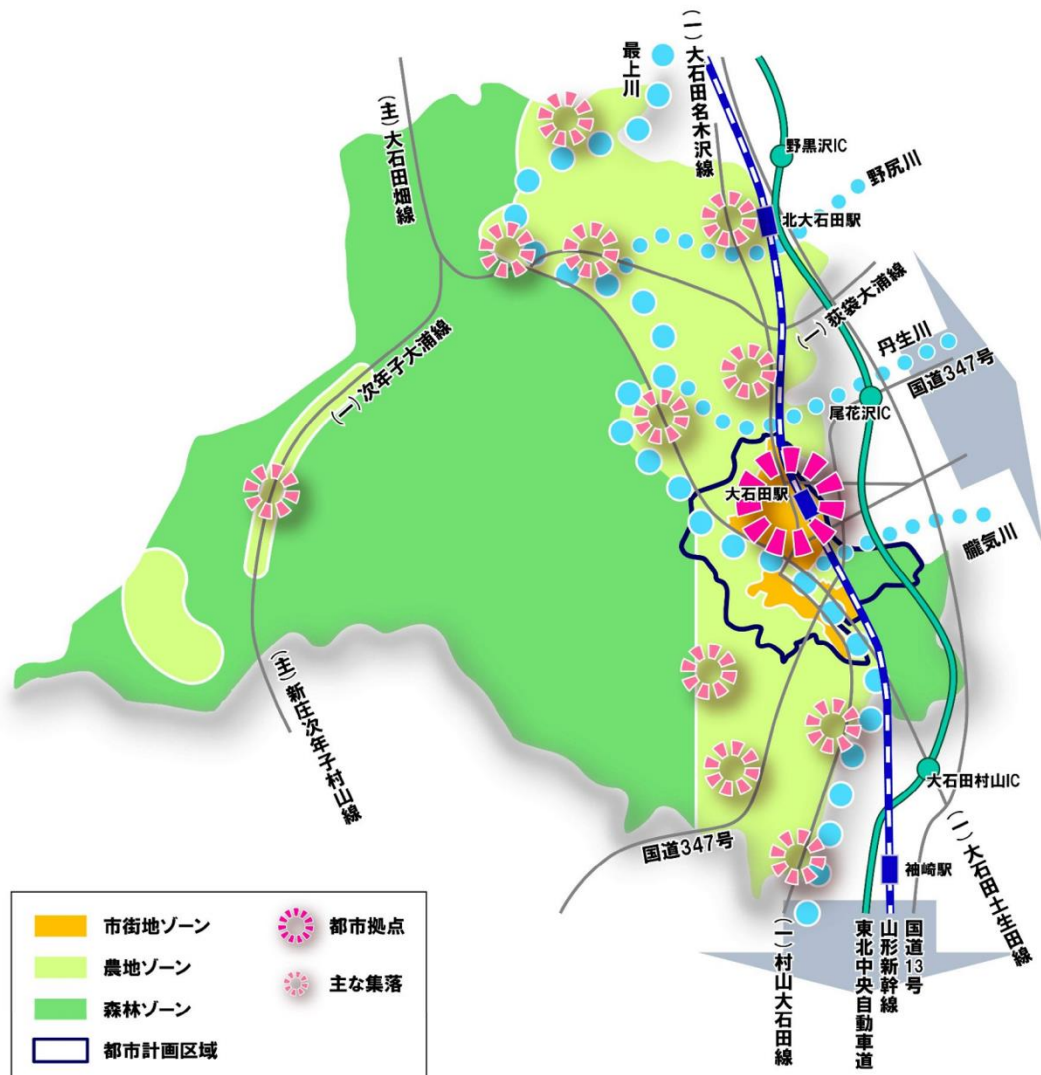
【将来都市構造】

町の都市構造は、概ね、役場や大石田駅を中心とする「市街地」の空間、水田が広がり集落が点在する「農地」の空間、大高根山とその周辺の「森林」の空間の3つから構成されている。

これら3つの空間において、最上川が貫流しており、JR 奥羽本線（山形新幹線）をはじめ、東北中央自動車道や国道13号、国道347号といった主要な交通網が形成され、都市間を結ぶ骨格的な交通軸となっている。

市街地ゾーン

- 人口減少・高齢化が進行する中、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方に基づき、居住や生活サービス施設の集約と公共交通ネットワークの形成を両輪とした持続可能な都市構造の構築が求められている。本町ではコンパクトな市街地が保たれていますが、一部には未利用地が残るほか、最上川の沿川は浸水リスクも含んでいる。
- ▶雪国としての地域特性を踏まえながら、中心部を都市拠点と位置づけ、未利用地や既存の都市基盤を活用しつつ日常生活の利便性を確保するとともに、頻発化・激甚化する自然災害に対して強さ・しなやかさを備えた市街地空間の形成を目指す。また、舟運文化の面影を残すまち、文人墨客が訪れた水と緑に恵まれたまちとして、豊かな自然と調和したまちづくりを推進する。



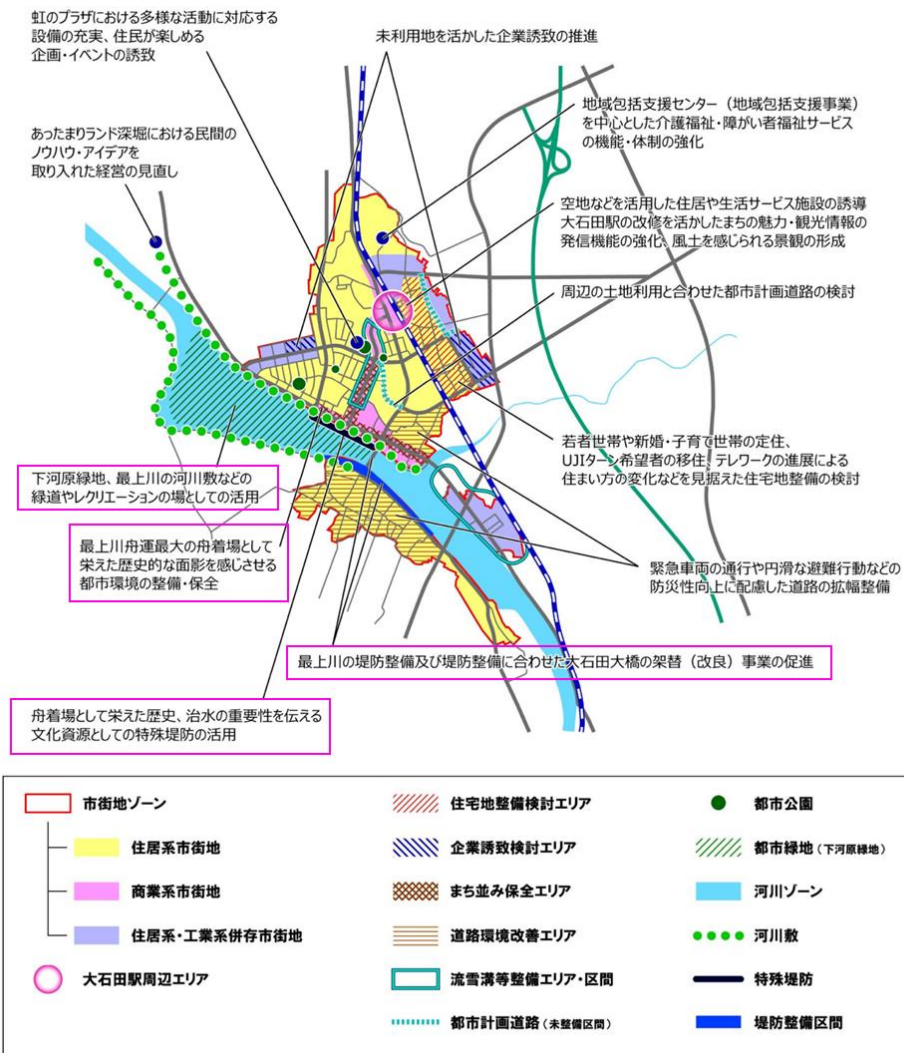
② 分野別まちづくり方針

分野別方針において、関連する項目を以下に抜粋する。

【土地利用の方針】

市街地ゾーン	○中心部の商業系市街地では、<u>短冊型の敷地と町家によるまち並みの保全に努めるなど、最上川舟運の中心河岸として栄えた歴史・文化が感じられるまちづくりを進める。</u> ○大石田駅及び駅西エリアは、<u>尾花沢市銀山温泉の利用者の経由地となることから、大石田駅都市施設の改修を活かしたまちの魅力・観光情報の発信機能を強化するとともに、風土を感じられる景観の形成に努める。</u>
河川ゾーン	○最上川及びその支流となる河川は、<u>かんがい用水や生活用水などの利水、多様な動植物の生息・生育環境、まちに潤いをもたらす水辺空間として、都市と自然双方の視点にたった保全・利活用を図る。</u> ○洪水被害から住民の生命・財産を守るため、国や県、流域都市と連携しながら堤防強化や河道掘削などの治水対策を進める。 ○下河原緑地は、<u>最上川とふれあう親水空間として、また、グラウンドなどが整備されたスポーツ・レクリエーションの場としての活用を図るとともに、沿岸の修景に努める。</u>

対象地整備や「かわまちづくり支援事業」などにかからむ主要施策は、大石田大橋を中心に最上川をはさんで両岸に分布しており、近接しているため、検討区域も含めて互いに連携しながら活用を図ることで、相乗効果を高め、まちづくりにつなげることが可能で、ポテンシャルは高い。



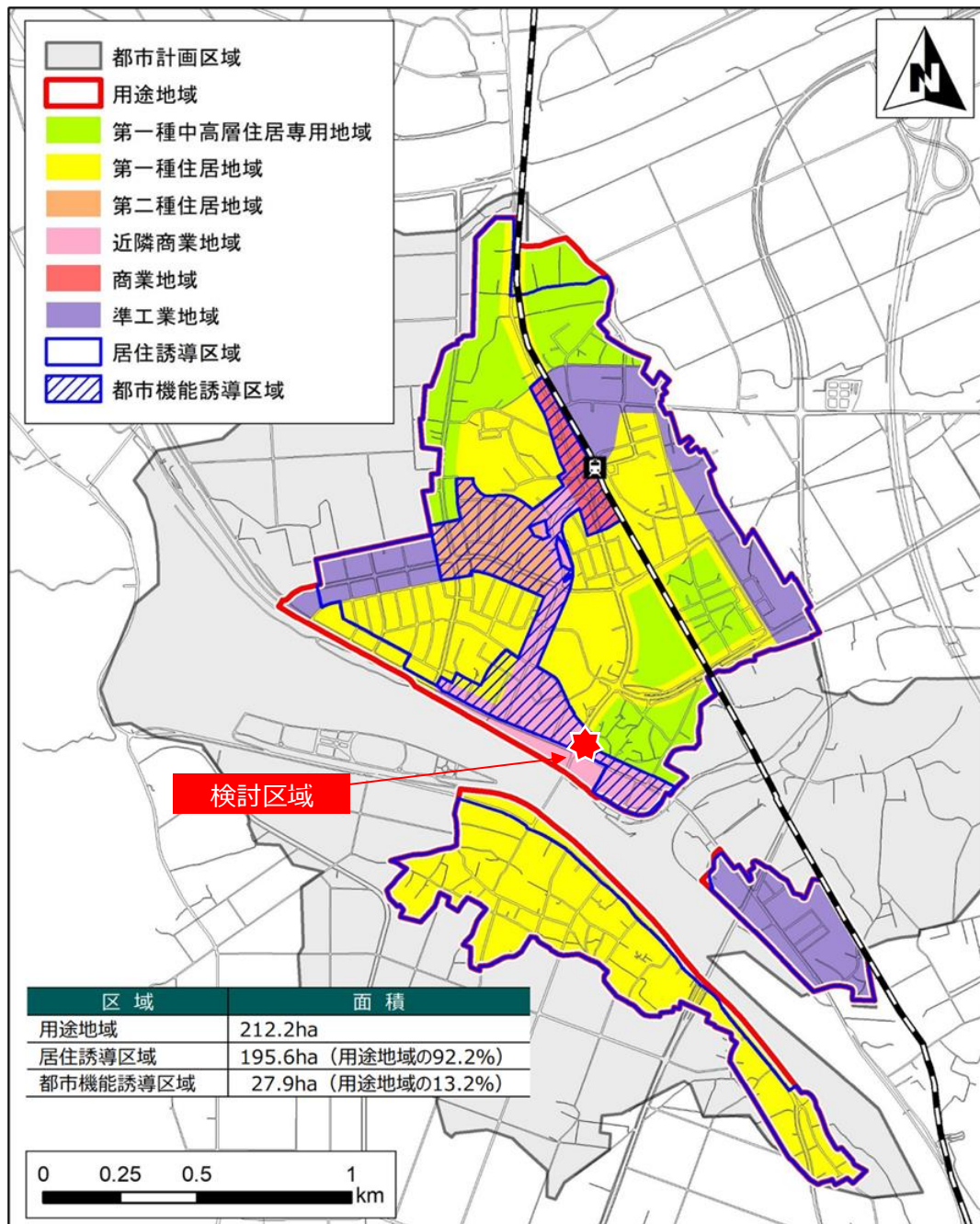
③ 立地適正化計画

居住誘導区域は、生活サービス施設や居住が集積しているまちの中心や公共交通によって比較的容易にまちの中心へのアクセスが可能な区域に定めている。また、都市機能誘導区域は、鉄道駅に近く、生活サービス施設が一定程度充実している区域や周辺からの公共交通によるアクセスの利便性が高い区域など、まちの拠点となるべき区域に定める。

一方、これらの誘導区域は、災害危険性の高いエリアを除外して設定している。

対象地域は、居住誘導区域及び都市機能誘導区域に含まれている。

【居住誘導区域・都市機能誘導区域】

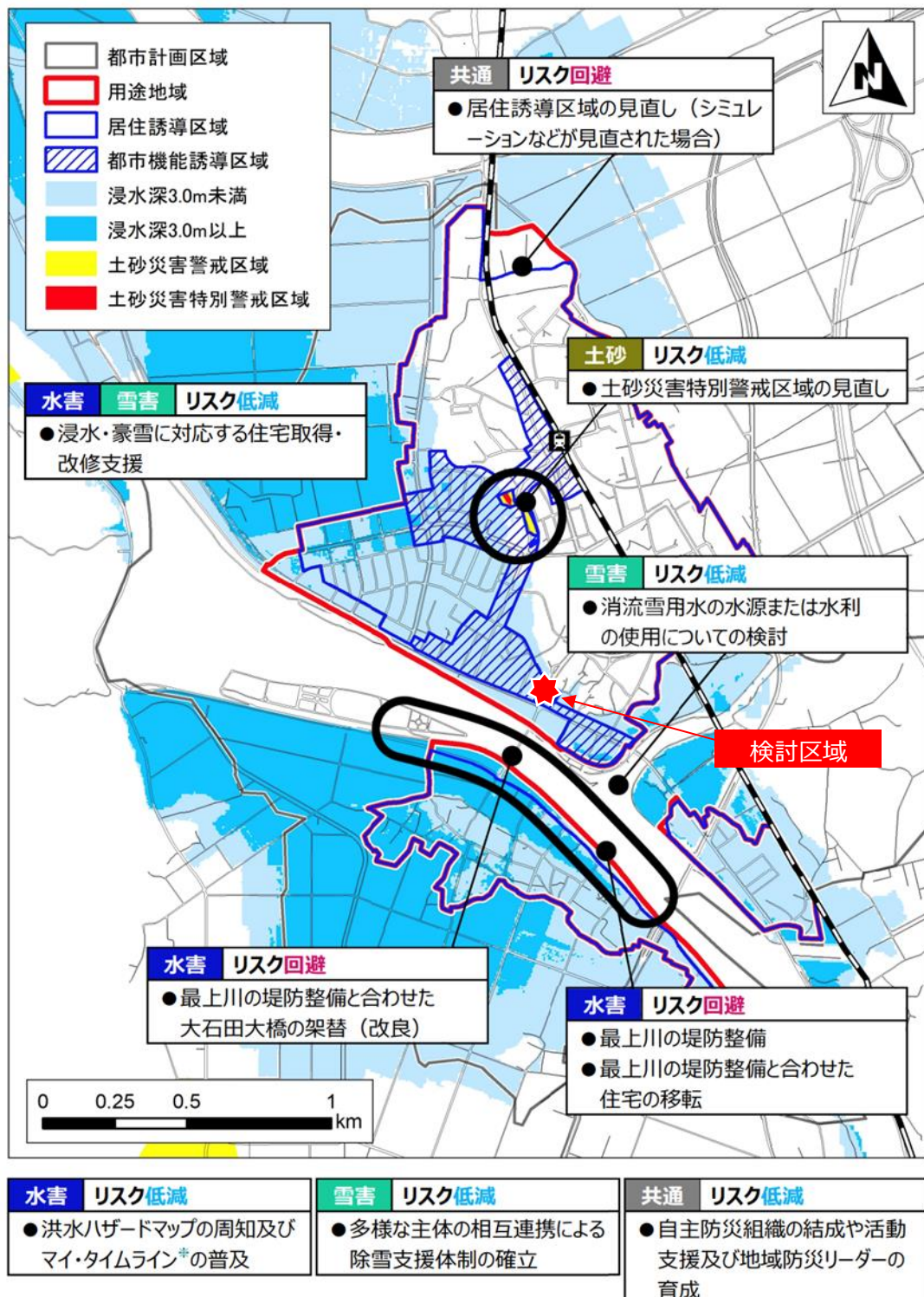


④ 防災指針

本計画においては、居住や都市機能の誘導を図るうえで必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針として、防災指針を定めることが求められている。

大石田町国土強靱化計画や大石田町地域防災計画、最上川流域治水プロジェクト（最上川流域治水協議会策定）などの計画と連携しながら、居住誘導区域及び都市機能誘導区域において安全な市街地を形成するために定められている。

【重点施策】



※浸水想定区域は、想定最大規模を示しています。

(5) 大石田大橋架け替えに関する大石田地区付替道路の整備計画

①大石田大橋の現況交通量

大石田大橋における令和5年4月15日(土)～令和5年4月18日(火)の4日間の交通量調査の結果をみると、大石田大橋の昼12時間交通量は、4日間平均で、車両が約1,200台／12h、自転車は20台／12h、歩行者20人／12hとなっており、車両の交通量が圧倒的に多い。

また、車両の内訳では99%が小型車で占めている。歩行者については平日に交通量が増えることから、通学に利用されていると推測される。

【大石田大橋現況交通量 7:00～19:00の昼12時間 ※既存調査の結果より】

	小型車	大型車	自動 2輪車	自転車	歩行者
令和5年4月15日(土) 曇	1,347台	5台	7台	22台	7人
令和5年4月16日(日) 曇り時々雨	924台	0台	2台	15台	10人
令和5年4月17日(月) 曇り時々雨	1,209台	7台	5台	17台	24人
令和5年4月18日(火) 曇	1,383台	7台	23台	23台	30人
4日間の平均	1,218台	5台	9台	19台	18人



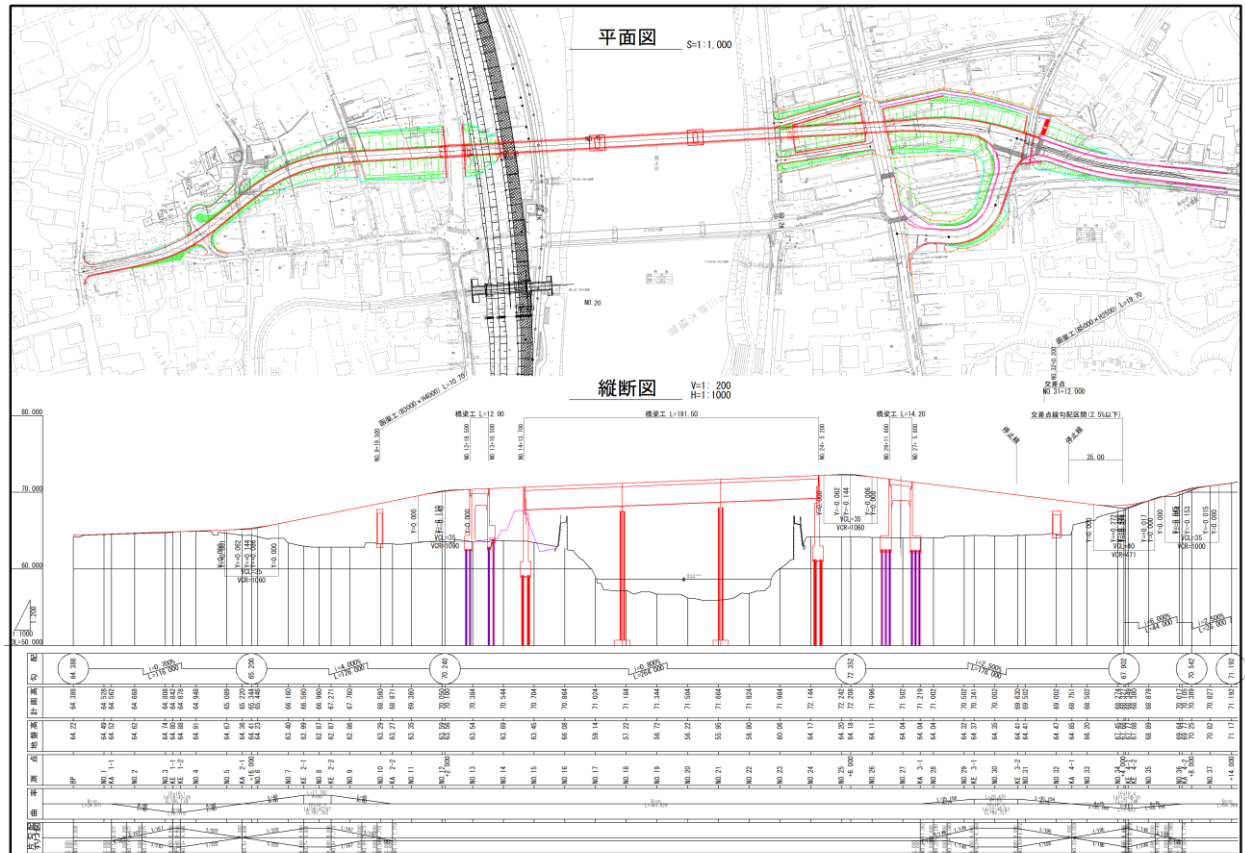
大石田大橋は、歩行者や自転車で渡るには幅員が狭い

②全体計画

大橋架け替え案としては、橋の長さが短く、家屋の移転が少なく、現在の大橋の位置に近いという理由から、下図の下流位置（約 60m 下流）への架け替えが決定している。

当該整備により、対象地区の住民の移転が必要となり、町登録文化財に指定された蔵づくりの家屋なども対象となっている。また、橋のレベルも高くなるため、既存の市街地レベルから歩行者等が橋を横断する身体的な負担は大きくなる。

一方で、橋梁上は、洪水時などでも車両などの通行ができるため、緊急対応が円滑に行え、横山地区から大石田地区への高台避難が可能になる。

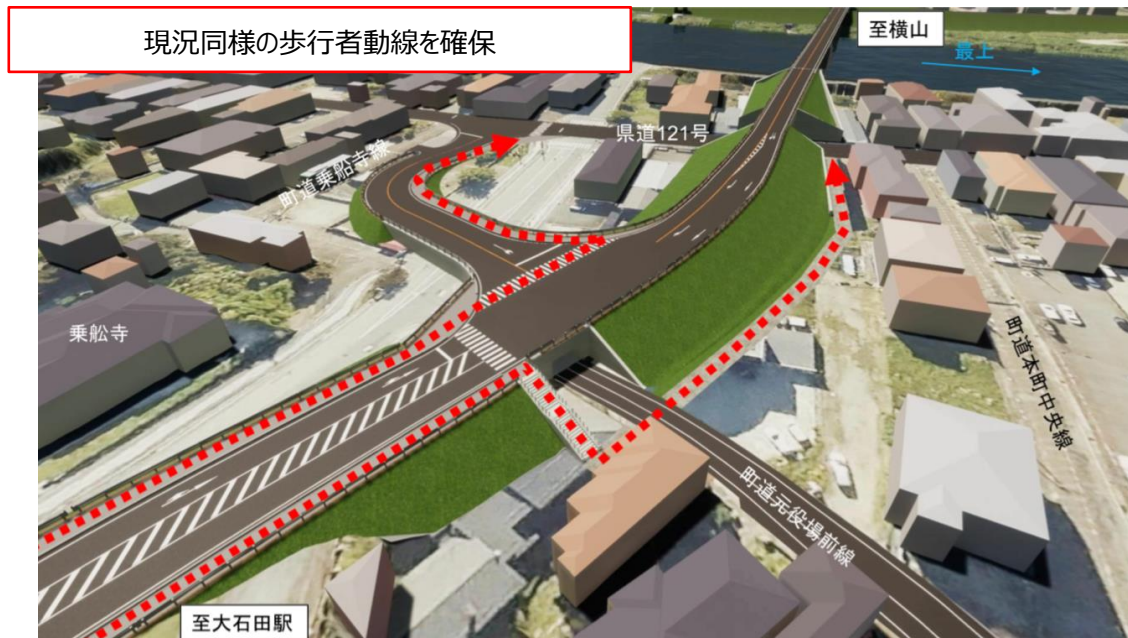


道路条件
 計画交通量：1,769台/日 (R5交通量調査)
 道路規格：第4種第3級
 設計速度：V=40km/h
 横断構成：W=7.0m (0.5-3.0-3.0-0.5)
 曲線半径：R=60m以上 ※採用値 Rmin=90m
 縦断勾配：i=7%以下 ※採用値 i=4% (積雪寒冷地域的大型車を考慮)

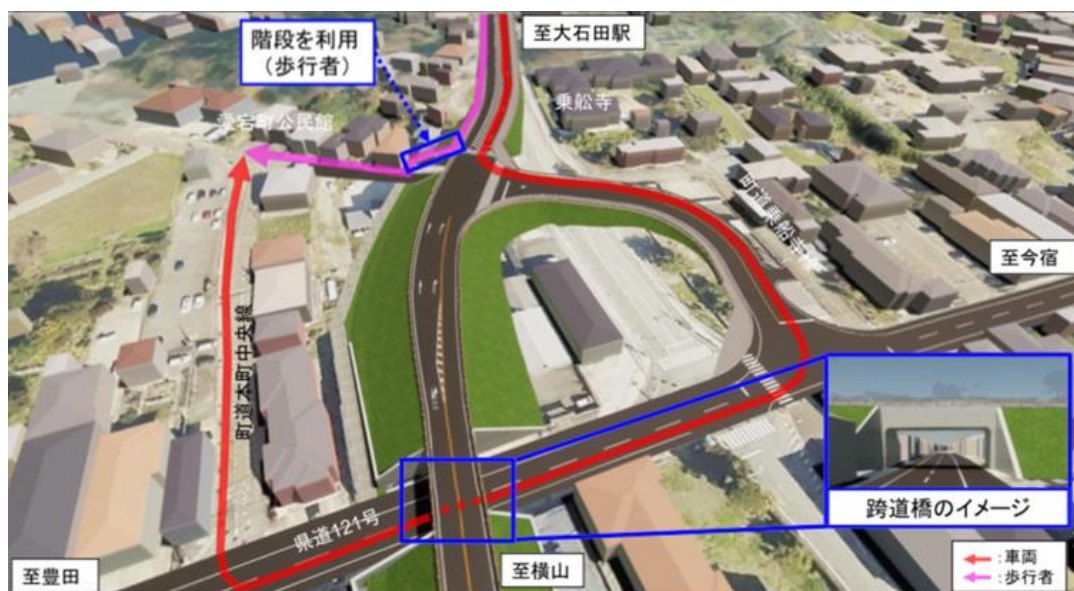
③付替道路の計画

【現況動線の確保】

大橋の架け替えに伴い、現況同様の車、歩行者の動線を確保している。

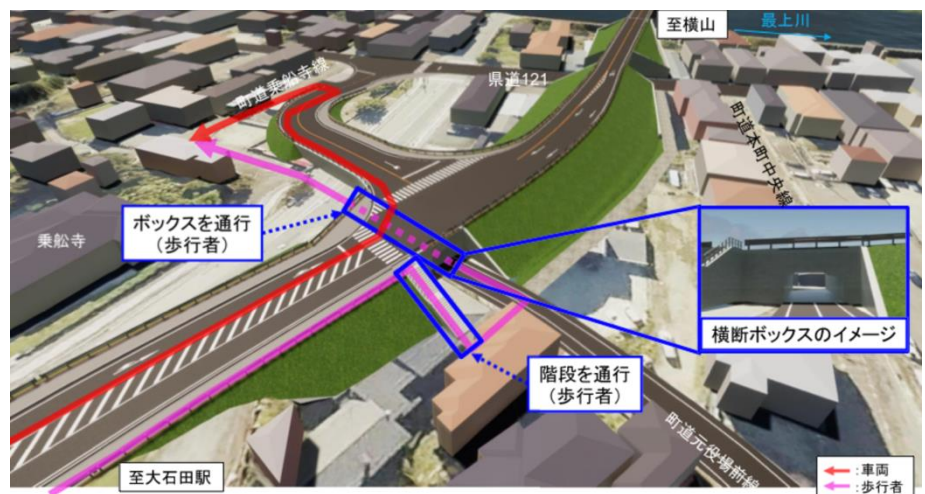
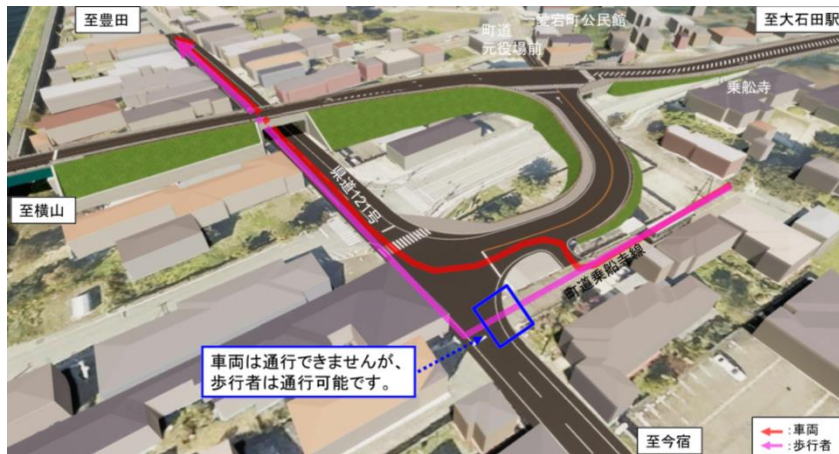


- 愛宕町交差点から取付道路交差点までの区間は、両側に歩道を整備。交差点より歩道分岐
- 南側の歩道（図の左側赤破線）は、交差点を横断し県道まで片側歩道を整備
- 北側の歩道（図の右側赤破線）は、交差点に階段を整備。盛土法尻に県道への側道を整備

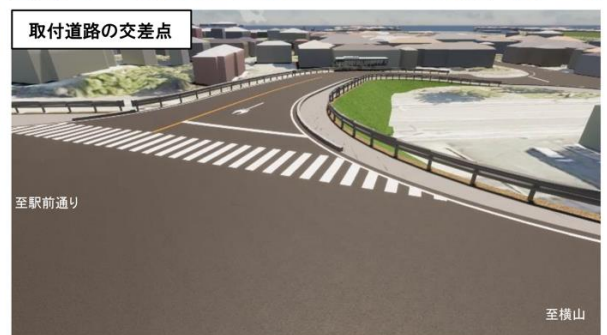
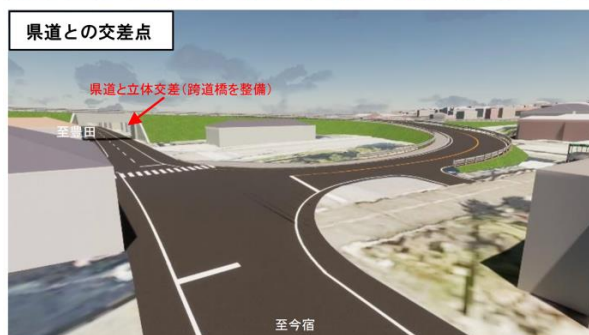
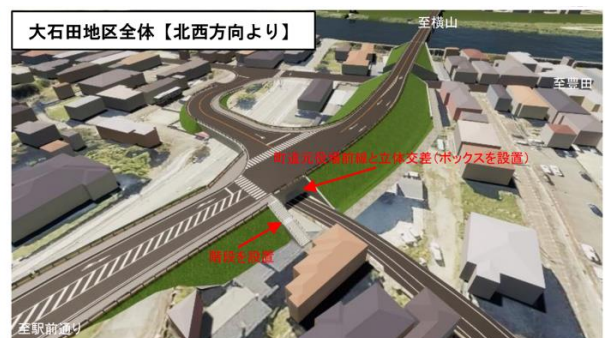


【乗船寺方向の動線】

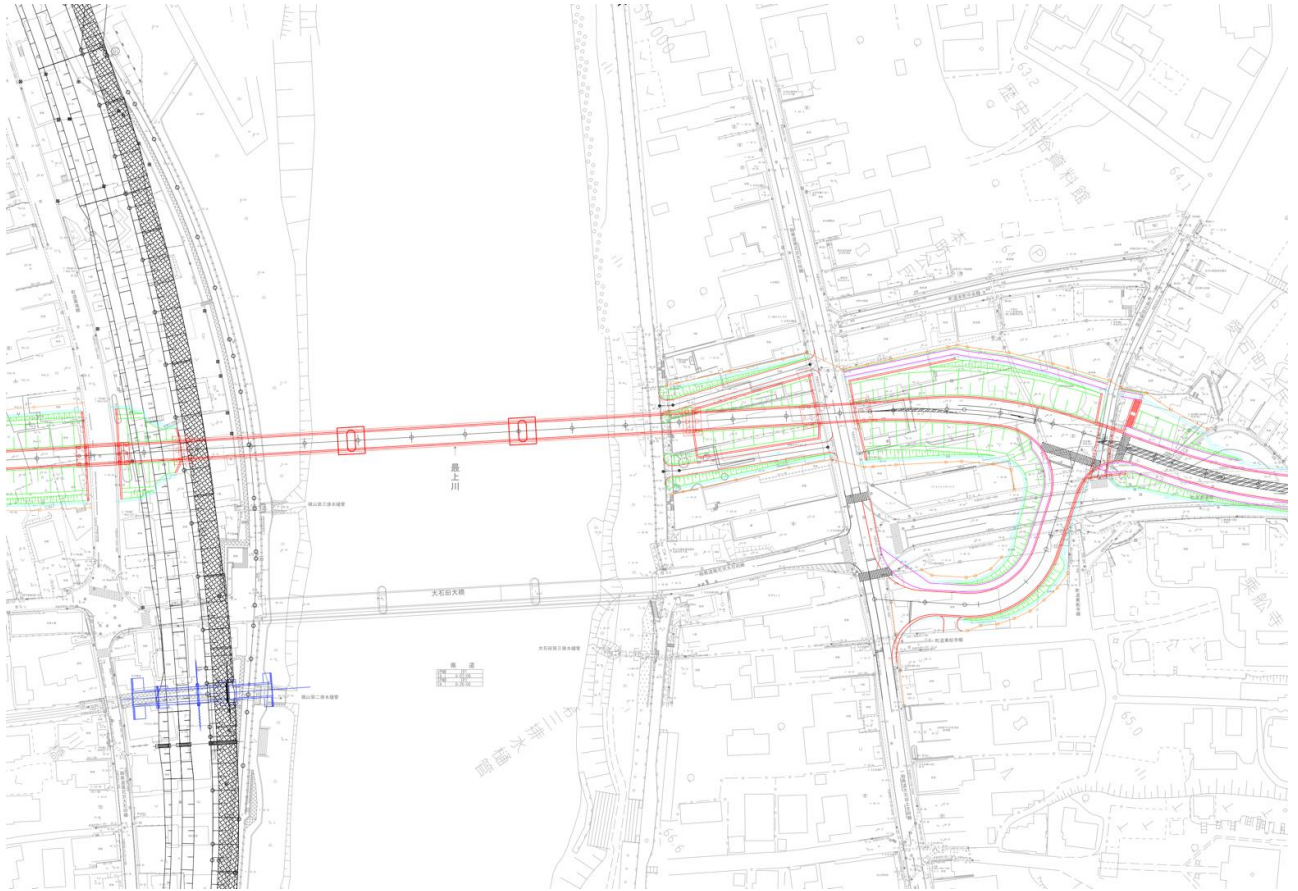
乗船寺方向へは、町道元役場前線からは、横断ボックスで、また、県道 121 号へは、町道乗船寺線を介して通行を確保している。



【完成形イメージ】

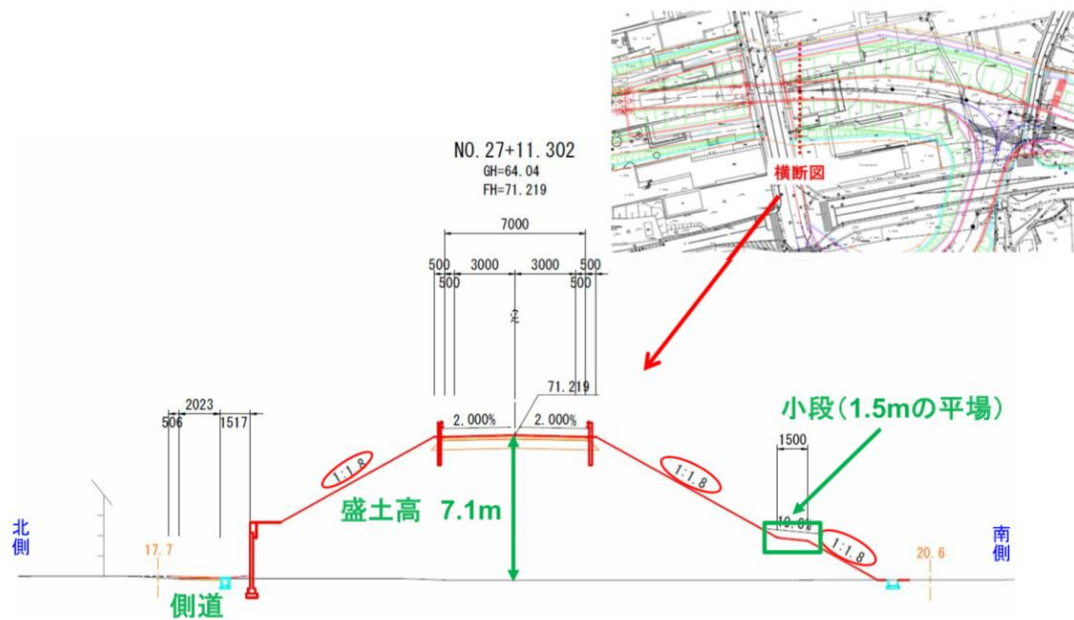


【平面】



【断面】

盛土の高さが5 m 以上の区間について、法面勾配を緩和し、圧迫感の軽減、降雪を踏まえた道路の維持管理の作業性向上を図っている。

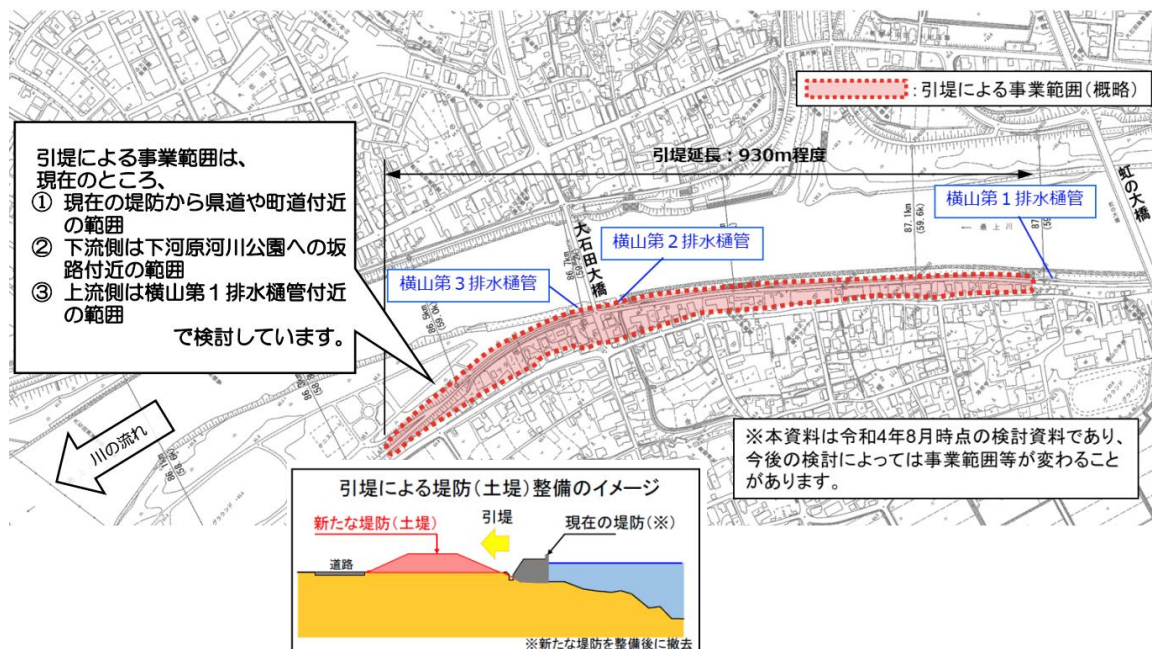


(6) 横山地区の堤防整備事業

①事業の概要

緊急治水対策プロジェクトの柱として、横山地区側に新たに引堤による堤防が整備される。大橋周辺の最上川の形状が横山側にカーブしているため、横山側に堤防を引いてカーブを緩和し、川の断面積を拡げて洪水時の水位を低下させる。

引堤とともに階段護岸やプロムナードの整備が要望されている。



②堤防整備イメージ

新たに整備される堤防の高さは、現在の特殊堤の壁（パラペット）の上端と同じ高さで、堤防の形状は、対岸の大石田堤防（土堤区間）と同様に土堤となり、小段（堤防法面中段の平場）を設けた形となる。横山側の特殊堤防は撤去となる。

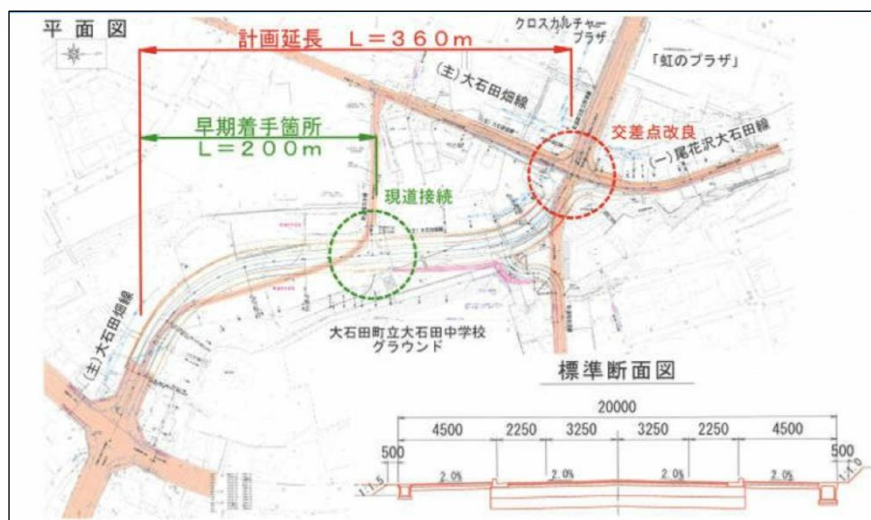


(7) 主要地方道大石田畑線 交通安全道路事業（令和5年度～）

都市計画道路・主要地方道大石田畑線の未整備区間の整備が進められており、地区外の流入車両について、外回り道路（当該道路を含む）を通過させて、地区内の安心・安全を確保する。当該区間は「ゾーン30 プラス」区域内にあり、並行して狭窄やゾーン30 プラス路面表示などの安全対策を実施している。

大石田大橋の架け替えや主要地方道大石田畑線の開通によって、外回り道路への自動車交通が移行することにより、検討地区への交通量の減少とともに、歩行者動線の当該道路への分散も想定される。

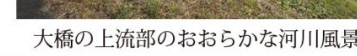
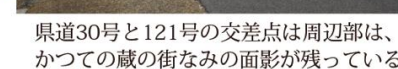
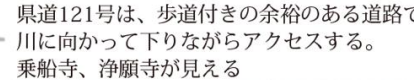
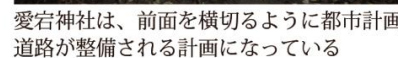
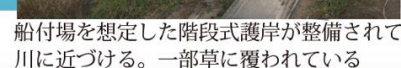
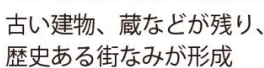
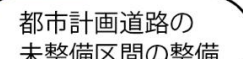
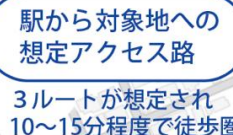
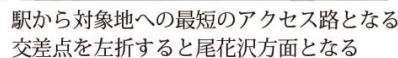
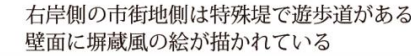
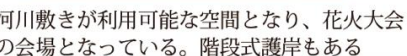
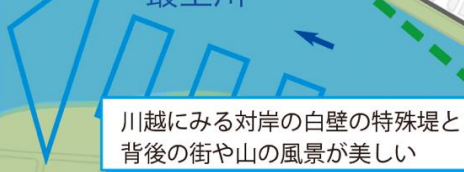
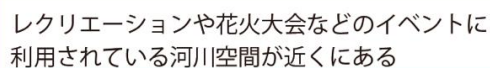
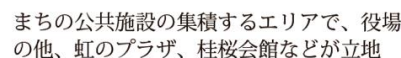
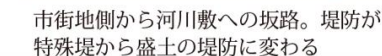
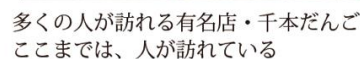
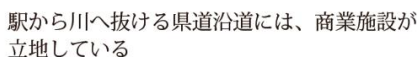
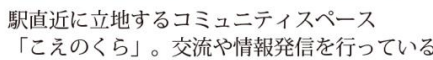
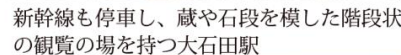
【計画概要】



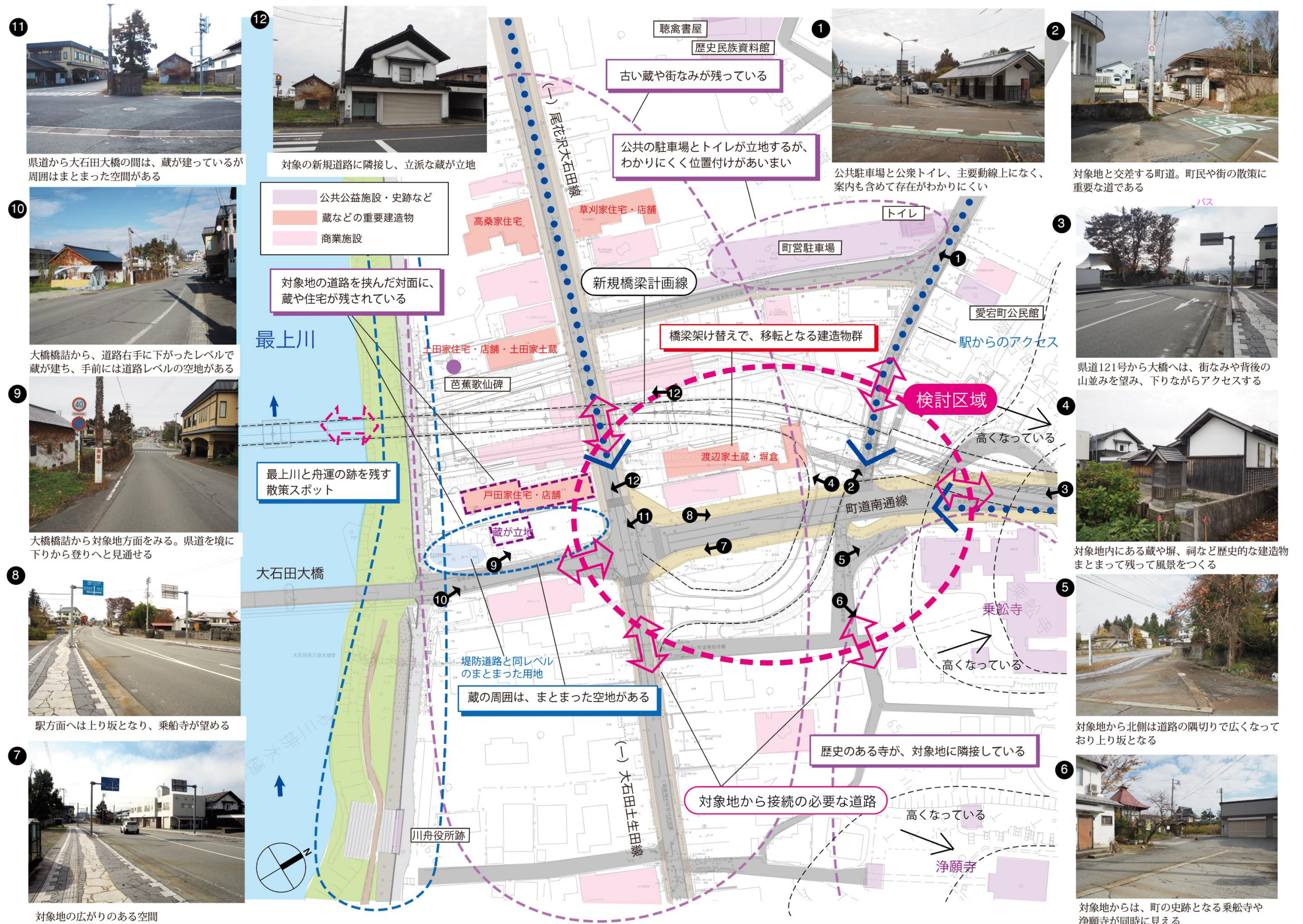
計画延長
: L=360m
計画幅員
: W=20.0m

(1) 広域的な地域特性

(1) 広域的な地域特性



(2) 検討区域(残地)周辺の地域特性



(3) 大石田大橋周辺の地域特性

